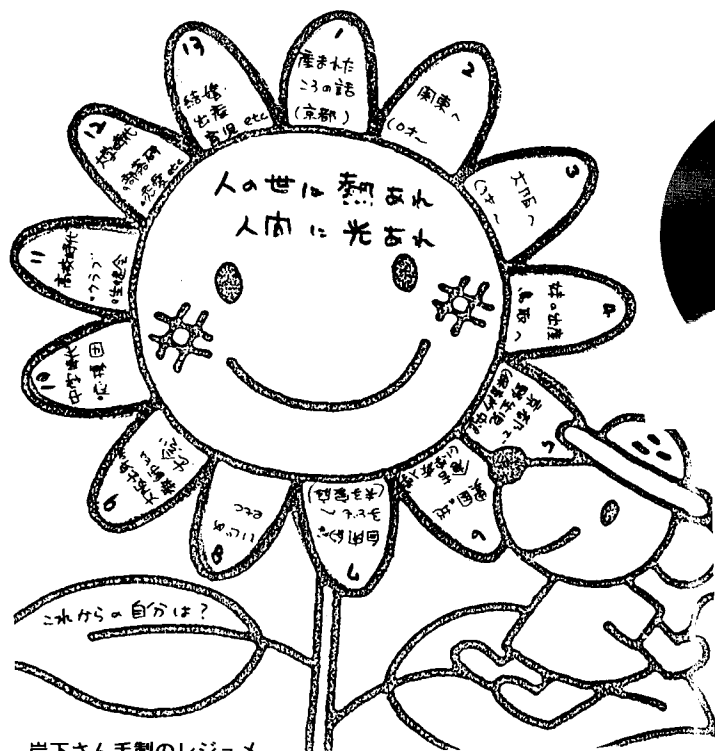


出会い ふれあい 助け合い

サロンのあべの

VOL.178



岸下さん手製のレジュメ



私、自分さがしの真っ只中です

被差別部落に生まれ、育ち、そして・・・いま――

△サロン・あべの▽三月の出会い

平成十三年三月十七日(土) △サロン・あべの▽三月の出会いには、障害者の作業所の職員をしておられる岸下洋子氏に、自身の現在・過去・未来について、お話をうかがいました。

幼ない頃

新幹線が開業した昭和三十九年、周りに祝福されて誕生。折りしも日本は高度経済成長の真っ最中で、父の仕事も順風満帆の時だった。横浜・横須賀から大阪へ移った三歳のころは、人なつっこく、人見知りをしない子で、誰とでもすぐ仲良くなり、近所のおっちゃん、おばちゃんの間でも評判の人気者だった。

諸々の事情で生まれた場所(京都)へ戻る。ここでの生活は野山を走り、川に入り、文字通り自然の中を思う存分に駆け回っていた時で、この頃が一番自分らしく楽しい時期だったと振り返る。

ところがまた、父親の仕事の都合で鳥取

へ向う。倉吉と京都の言葉の壁は七歳の子供にはあまりに厚く、小学校ではコミュニケーションがうまく取れないことから、いじめられ孤独になっていく。この頃、両親の離婚、「父子家庭」という環境の中、自閉的な子供に変わっていく。

大阪出身の先生との出会い

言葉の「異国の地」で、親もなく、祖母に養育されている生活に、子供心コンプレックスを持ち、友達に知られまいと必死に隠していた。六年生の頃作文に綴った。

『小学校では何も楽しいことはなかった。弁当はあたかも母が詰めしてくれたように、自分で作ってはいない。授業参観のときは、誰も来ないのが分っているのに、みんながするように後を振り向いて、親を捜すジェチャーをしていた。』

五・六年時の先生は大阪からの赴任で、言葉に親近感が持てることもあり、心を開いて いろいろなことを聞いてもらって

た。

名前を伏せて、みんなに読み聞かされたこの作文は、自然と誰れのものかすぐに判り、友達から「おまえは すごい」と予想しなかった言葉が返ってきて、うれしくなった。何か吹っ切れたように、以後、何事にも活発に活動するようになった。

差別は、こんな身近なところに…

そんなある時、社会の授業の中で被差別部落の成り立ちなどを教わり、何の抵抗もなく、聞いたことを祖父に話したところ、自分が「被差別部落」出身であることを知らされ、「自分さえしつかりしていれば、差別なんてされない」と悟される。

中学に進学してからは、バレー部、応援団、生徒会活動に持ち前の明るさと積極性を発揮、みんなからは好感を持たれていた。あこがれの先輩の話をしていた時、「洋子ちゃん先輩とつき合う資格があるから大丈夫」と友だちがはげましてくれた。そして「N子にはぜったい勝てる。N子は部

落だから、先輩とつき合う資格ないから…」とのこと。彼女にしてみれば、私を応援しての発言だったが、素直に喜べない私は、「私も部落よ」と正直に言ってしまった。次の日から口も聞いてくれなくなったS子。これが「部落差別か…」と身近に実感した中学時代。自ら出身を口にすまいともその時に思った。

落ち込ませた教師と

勇気づけてくれた友

高校のホームルームの時間に 部落問題を考えるホームルームがあり、自分ももちろん渾身の思いを込めて、「包み隠さず」発言した。赤裸々に発表したものの、担任に「岸下さんの気持ちはわかるけど、人間には本音とたて前がでるから…」と発言を受ける。不安が脳裏をよぎった。翌日の登校は随分ためらわれたが意を決して行ったところ、友人の一人から手紙を手渡された。その内容は正直なもので、生きていく勇気を与えてくれた。

人の世に熟あれ 人間に光りあれ

大学に入って、たくさんの人に出会い、それぞれの人の生き方 考え方を知った。また、解放研究会に所属し、人権、人種、

自立生活理念を考える —自己決定と介助—

■ 11 ■

黒田隆之

部落などさまざまな差別について研究し、各校との研究会や勉強会にも参加して、自分が差別を受けたとき、どういう生き方をするのか を学んだ。

今は、その交流会で知り合った男性と結婚して、二人の子供がいる。この子らに、

自分の生きざまをどう伝えるか。そしてまた、生きる本質を自身自問し続けてもいる。「人の世に熟あれ、人間に光りあれ」

自身の熱い心の思いを伝えられたハサロン・あべのV三月の出会いでした。

参加者十四名(山村貴司)

の各地方自治体にも広まりつつある。大阪市の「全身性障害者介護人派遣事業」もその一つである。

「自立生活モデル」はアテンダント(有料介助者)方式と呼ばれる介助サービスの提供方法によって実現される。アテンダント方式を採用する制度としては、米国カリフォルニア州の I H S S (In-Home Supportive Service) をはじめとして英国

デンマーク、スウェーデン等、そして日本

アテンダント方式の原則は、次のように説明される。介助を必要とする障害者は個別に介助者を募集し、応募してきた介助者と雇用契約を結び、介助サービスを受ける。行政主体は、介助サービスを提供するのではなく、障害者が介助者を雇用するための費用を保障し、介助にかかる費用を障害者に支給する。介助者の雇用主である障害者が、介助者が持つ労働力を介助サービスという形で消費する。労働の対価としての賃金は雇用主である障害者から直接介助者に支給される。

アテンダント方式を用いることで、障害

者が介助サービスの内容と質を管理し、介助者との関係の中での障害者の選択権・自己決定権を保障することができるといふことの根拠は、介助者と障害者の金銭(賃金)を介在しての契約にある。しかし、実際には、常にアテンダント方式が有効に機能するとは考えられない。

例えば、介助者になる人が不足している状況では、質の低い介助サービスしか提供できない介助者であっても、解雇してしまふと別の介助者を雇用することが困難である場合、契約関係があつたとしても介助者が介助関係を支配・管理する構造を崩すことは難しい。

介助を必要とする障害者と介助者との個別の契約に影響を与える要素は、障害者

と介助者両者だけの閉じた関係の中ではお
 わらず、障害者と介助者との関係は、労働
 市場における需要と供給の関係に従うこと
 になる。介助サービスが供給不足となった
 場合、障害者はどのような介助者であつて
 も生活していくために雇用しつづけざるを
 えない。

また、障害者が質の良い介助サービスを
 提供する介助者を得るための方法として、
 賃金を上昇させるということが考えられる。
 それにより新規に介助者になろうとする人
 もあらわれるであろうし、また、介助者の
 側にも選択権があるのだから、他の障害者
 の介助者をやめて新たに高い賃金を提示
 する障害者と雇用契約を結び直すという
 ことも考えられる。

行政が障害者に支給する介助費用は、一
 般的に無制限でなくその障害者の障害の程
 度やニーズによって決定され固定されてい
 る。ということ、障害者が提示できる賃
 金には限度があり、限度以上の賃金を提示
 するには、必要な介助時間数を削って賃金
 に乗せするか、もしくは別の収入源に頼
 ることになる。それはつまり、金銭的に裕

福な障害者ほど質の高い介助者を雇用でき
 ることになり、公的な介助費だけしか持た
 ない者は、相対的に質の低い介助者しか雇
 用できないという状況が起こるということ
 を意味している。

介助者の絶対数が不足するという事態
 は、何らかの公的な施策なしでは避けるこ
 とはできない。労働市場全体に介助者を求
 めることで、介助者不足をある程度は軽減
 することはできるかもしれない。しかし、
 労働者が職業を選択する際には、特に賃金
 や福利厚生との程度は重要であると考えられ
 るので、介助費用が固定されているアテン
 ダント方式では他の職業の雇用者と賃金で

競争することは難しいだろう。ということ
 は、アテンダント方式は、経済的な景気変
 動によって、つまり好景気の際は介助者が
 探しにくく、不景気な時は介助者が見つけ
 やすいという不安定な状況から逃れること
 ができない。

さらに、長期間安定した雇用契約を結ぶ
 ためには、社会保険などの福利厚生が求め
 られると同時に、障害者が介助者の雇用主
 となるのであるから、様々な雇用者として
 の責任も発生する。雇用主としての責任を、
 各種社会保険の保険料の負担等を含めて、
 障害者個人が負うことは、大きな負担とな
 るに違いない。

奥田真祐美

2001 魅惑のシャンソン
 シャンソンの名曲を集めて

日時=5月27日(日)
 開場14時30分 開演15時
 会場=森ノ宮ピロティホール
 入場料=前売り ¥4,500
 当日 ¥5,000
 (全自由席)

曲目=・バラ色の人生
 ・セ・シ・ボン
 ・パリの屋根の下
 ・ラ・メール
 ・ミラボー橋
 ・マイ・ウエイ
 ・桜んぼの実る頃 他

演奏=西川真グループ
 ピアノ:西川真
 ヴァイオリン:西川葉子
 ベース:小笹了水

お問い合わせ先=
 TEL・FAX 06-6692-8774
 (奥田真祐美音楽事務所)

★体験とイメージ

「このあいだ、やっと末期がんの子どもさんに出会うことができたんです」と、嬉しそうに話す病院の若いケースワーカーに会った。彼女は重病の子どもたちの援助をしたいという気持ちで病院で働いていた。しかし、その病院では子ども患者は少なかった。それで彼女は自分の仕事に物足りなさを感じていたのである。子どもたちにかかわりたいという彼女の純粋で、優しい気持ちを私はよく知っていた。だから目を輝かせて、病気の子どもとの出会いを私に語っても、それはごく自然なことだと思う。しかし私は彼女の喜びに共感する前に「末期がんの子ども」というイメージに圧倒され、言葉を失い、それを嬉しそうに語る彼女の笑顔に困惑を感じていた。

自分が子どもをもつようになって変わったと思うのは「子ども」と聞いたときに連想するイメージの量である。子どもがいないころは「子ども」と聞いても、「小さな幼い人」「若くて保護が必要な人」といった辞書的な定義しか思い浮かばなかったように思う。

学生時代に何年にもわたって子どもたちと遊ぶボランティア活動をやってきたし、幼い甥とひと時を過ごしたこともある。それでも「子ども」という言葉を耳にして私の脳裏によぎるものは、それにつながるいくつかの単語でしかなかった。そこに「末期がん」という別の言葉が重なっても、思い出すものはそれほど変わらなかつただろう。



とした実感あるイメージをとまなつて響く。歓声をあげ両手を広げて抱きついてくる様子や、夜中に延々と続く泣き声、大きな箱いっぱいにつけた得意そうな笑顔、顔を顔いっぱいにつけた得意そうな笑顔、ごう音とともに走る電車に驚き、伸ばされた小さな指先、子どもを胸に抱いた妻の姿、アルバムに貼り切れないほどの写真の束や、ほとんど観る機会もないままに撮り続けたビデオのテープ。こうした連想が途切れることなく流れ出てくるのである。

そして、その連想の勢いは、まだ私が出会ったことのない「末期がんの子ども」にまで届く。私は気がつけばその子の親の気持ちを考え、出口のないような悲しみと、正気を失うほどの重苦しさを思っていた。

考えてみれば、これは「子ども」という言葉だけのことではない。私は社会福祉にかかわる教員として「障害」「介護」

「痴呆」「アルコール依存症」「虐待」といった言葉を日常的に使っている。どれもその体験をもつ人にとっては圧倒的なイメージに包まれた言葉であるはずだが、自分自身の生活のなかで体験したことがないために、私の頭のなかではいくつかの教科書的な定義にしか結びついていない。

わかったような顔をして、本当はもっと配慮して使わなければならなかった言葉を、私はあまりに無造作に扱ってきたのではないだろうか。小さな一つの単語でも何年間にもわたる生活体験を人に想起させることがあるのである。(知)



感

謝



カンパ、切手、はがき、カセットテープ、お茶菓子等のご寄贈、またサロングッズのお買い上げ、ありがとうございます
 稲川絢子、岡 賀寿子、岡 知史、岡本憲俊、田村昌子、仲田孝史、中谷敏昭、表谷恵美子、平岡 太、牧口一二、松村順子、丸山寿美子、その他の方々

桜の咲く頃

今年も桜の咲くシーズンになったが、この頃になると忘れられないことがある。

私は毎週火曜日近くの特養老人ホーム「たちばなの里」でお風呂に入れてもらっている。

一年前の四月のある日のこと、私はいつものように「たちばなの里」の二階の入浴室でお風呂に入ったあと、脱衣場のベッドに寝かされて、職員の北岡さんと溝淵さんに服を着せてもらっていた。その時、北岡さんが手を止めて「稲垣さん、ここから見る桜もきれいですよ」と言ったあと、溝淵さんと二人で私の両腕を持ち上げるようにして窓際から下を見せてくれるではないか。

「ほんと、見事ですすね」
 私は一階の中庭の満開の桜を

晴れのち晴れ

③1

稲垣 恵雄

見ながら感嘆の声を出すと、「二階から見るのもまたいいでしょう」

「とっても風情があつていいわねえ」

北岡さんも溝淵さんも同じように桜を眺めながら関心していた。

そのあとしばらくして北岡さんと溝淵さんは再び服を着せてくれたが、それにしても二人とも何とやさしい心の持ち主なんだろう。お風呂へ入れるだけでも大変なのに、その上「二階から見る桜もまたきれいですよ」と言つてわざわざ起こして見せてくれるなんて本当に私は心うたれ、目頭の熱くなるのを覚えた。

これからは私は満開の桜を見るたびに北岡さんと溝淵さんのことを思い出すのに違いない。

植物あれこれ 第二十七回

山口康二郎

みどり(1)

若草色、萌黄色 4月

「今年の桜は早く咲くよ」、わたしは親しい友人に3月中旬にこう公言していました



た。その理由は以前(166号)にも少し書きましたが、今冬の厳しい寒さでした。桜は寒さが厳しければ、厳しいほど開花ホルモンを蓄積し、気温の上昇を待って一気に開花するのです。気象庁の開花予想の10日以上早く開花するとは思いませんでした。予想が当たって一人悦に入っているわたしです。わたしは桜は花より、葉桜の方が好きです。それも以前に書いていますが、もう一つわたしは、色の中で緑が一番好きなのです。

緑が嫌いという人は非常に少ないといわれています。なぜなら自然界で最も多い色だからです。春の新緑はわたしたちを生き生きさせてくれる力を持っています。緑の語源は日本では「瑞々しい」といわれ、英語の green は「草、成長、茂る」、ドイツ語は「育つ」を意味するといわれています。また「不滅の色」「命の色」、厳冬の地では「復活の色」とされています。

さて、その「みどり」という色もさまざま

あります。ある新聞記事には、日本工業規格(JIS)では15種を基本色と定めている、と書かれていたのを思い出して色々調べてみましたら、「みどり」を表す言葉は28もありました。二、三列挙しますと、オリーブグリーン(暗い灰黄緑)、白緑(びやく)(ごく薄い緑)、若草色、萌黄色、若葉色、松葉色、草色などです。

その中で4月に最もあっているのが萌黄色、若草色といえると思います。

この両者、色彩的には同じ黄緑なのです。ある人は柳の新芽を見て、萌黄色といい、ある人は、野の草の生えぎわを眺め、若草色とつけたのでしょうか。

学生時代奈良で過ごしたわたしには、あの若草山の黄緑が思い出されます。また、当時の大学の構内には何代目かの八重桜があり、「あおによし奈良の都は咲く花のほふがごとく今さかりなり」の歌碑があったのを思い出します。この「あおに」とは顔料や染料の原料の、青丹(あおに)の青黒がかかった緑の意味だといわれています。これらがやがて4月下旬になるとリーフ

グリーン(くすんだ黄緑)、若草色とだんだんと色を深くしていくのです。微妙な違いのある黄緑色がそれぞれの色を競っているようで心が浮き浮きます。

緑によって人の生命の張りも増すと実感する季節の到来です。

サツキの美しさに感動した寝たきりの高齢者が、自分も育ててみたいと発奮し、やっているうちにやがて立てるまでに回復したという話を聞きました。

「緑(木)を植えることは生命を育むこと」なのです。

サロン紙

四月と申しますのに、肌寒い日が続いております。

突然お便りいたします。小嶺さんのお世話で「サロン・あべの」紙をお送りいた



ハーブティーを飲みながら 楽しく学ぶ 園芸実践講座

—— 受講者募集 ——

- 日時：毎月第1土曜日午後6～8時
前期＝4～9月(全6回)
後期＝10～3月
(園芸にかかわるクラフト講座予定)
- 内容：*草花の育て方＝種蒔きから挿し木・剪定の仕方までの実技
*質問コーナー＝園芸何でも相談
- 経費：会費5000円(6回分前納)
(1回ごと納入1000円)
別に材料費実費負担有り
- 場所：バリアフリーサロン「グリーン」
大阪市天王寺区烏ヶ辻1-8-9-106
JR環状線 桃谷駅 徒歩5分
- 講師：太田周作(NHKテレビ園芸講座講師)
山口康二郎(市生涯学習インストラクター)
他 大阪テクノホルティ園芸専門学校講師
- 主催：大阪園芸療法研究会
園芸ボランティアグループ
- 申し込みと問い合わせ先：
山口 TEL・FAX 06-6773-0405



くようになりまして、ありがとうございます。いつかは参加させていただきたいと思いつつ、一度も出会いに出席させていただけないまま、ある事情で平野区へ引越しました。緑あって「サロンひらの」の方の出会いに参加させていただきました。初めての出会いなのに、温かい楽しいひとときを過ごさせていただくことが出来、見知らぬ土地で本当に救われる思いでした。施設に入っておりますので、土・日が貴重

な一日、どしどし参加させていただこうと思っております。転居しましたが、阿倍野区には二五年おりましたので、やはり懐かしいです。身勝手ではございますが、「サロン・あべの」紙を引き続きお送りいただければ幸いです。どうぞよろしく願います。後になりましたが、お体にはくれぐれもお気をつけください。

加藤 徳子

美智子のこんな話

岸田美智子

リハビリ相談やってます！

～障害者の皆さん、

身体が疲れていませんか？～

最近、緊張や身体のしびれが強くなった方、二次障害が気になる方、肩こりがひどくて困っている方、身体ほぐしのために、どこかに通いたい方が・・・などなど。

とかく障害者の身体は、負担がかかりやすく、疲れやすいものです。

そんな悩みを気楽に相談してもらうために、「自立生活センター・まいど」では、

月一回土曜または日曜の午後、「まいど」の事務所、作業療法士の先生の協力を得てリハビリ相談会を無料で開いています。

このリハビリ相談会では、障害者の方々のための相談ばかりではなく、普段介助に関わっている介助者の方からの相談も受け付けています。例えば腰を痛めない介助方法、障害者の身体の抱え方、よりよい介助マニュアル作り、障害についての基礎的な知識などについても気軽に相談していただいています。この相談会を地域の方々にとんどん利用していただき、障害者へのよりよいケアや楽しい生活を応援していきたいと思っっています。

今後の予定は

五月二六日(土) 午後一時半～四時半

六月 二日(土) 午後一時半～四時半

いずれも場所は、「まいど」事務局です。

毎月の日程は、先生の都合で変わりますので、参加される方は必ず、「まいど」事務局(担当II岸田)まで問い合わせと確認を入れてください

○連絡先

自立生活センター・

MY-DO(まいど)

〒五五八-0001

大阪市住吉区長居西二一九-12

キミハウス一階

TEL 〇六-六六〇九-三三三三

FAX 〇六-六六〇九-三三二〇

E-mail

cil-mydo@jasmine.ocn.ne.jp

電話は早い、
ファックスも
Eメールもある
けど、
こころ伝わる
サロンの絵はがき
がいい。

サロンの絵はがき

五枚組 一八〇円



☆平成十二年度活動テーマ「エンジョイ ライフ」

月・日・曜日	会場	毎月の出会い
平成12年 4・15・土	育徳コミュニティセンター2階研修室	「ピア・カウンセリングについて」 パネラー 大友章三氏(障害者自立生活援助センターとよなか 代表)
5・20・土	育徳コミュニティセンター2階研修室	「楽しい旅の話」〜出会いの扉を開こう!〜 パネラー 中田 治氏(旅行情報誌「Woo」主宰)
6・17・土	育徳コミュニティセンター2階会議室	「もう一度 ピア・カウンセリングについて」 パネラー 岸田美智子氏(自立生活センターMYIDO)〜まいど〜代表
7・15・土	育徳コミュニティセンター2階研修室	「小さな小さな国際交流」〜不要になった車椅子を南アフリカへ〜 パネラー トーマス・C・カンサ氏(南アフリカの子供たちを支援する会)
8・6・日	工芸高校校庭	第27回「あべのカーニバル」なんでも市通り「さろん亭」開店
9・16・土	育徳園3階 幸分ホール	「車いすで、ダンス! ダンス! ダンス!」 パネラー 中谷まゆみ氏(ウィルチエアーダンス育成会 会長)
10・21・土	アシタ奈津トレードセンターITM棟11階	「ATCエイジレスセンター 見学」 「福祉機器の見学や体験」



11・18・土	育徳コミュニケーション 2階研修室	「私の楽しみ、フィッシング&ダイビング」 パネラー 鈴木千春氏&安原美佐子氏
12・2・土	Hoop「庵」	「ホッとくつろぐ昼食会」和風創作料理
平成13年 1・20・土	育徳コミュニケーション 2階研修室	「エンジョイライフ」自分で決める好きな服、快適な服」 パネラー 小野 潤氏(布工房「我流彩彩」)
2・17・土	育徳コミュニケーション 2階研修室	「音と出会い、人と出会う——音楽療法って何?—— パネラー 朝野典子氏(音楽療法士)
3・17・土	育徳コミュニケーション 2階研修室	「私、自分探しの真っ只中——被差別部落に生まれ育ち、そして……いま パネラー 岸下洋子氏

◎その他の活動

- ハサロン・あべのV紙毎月第3土曜日発行
- ハサロン・あべのV紙、毎月朗読テープ作成(朗読V・Gほけっと)16名へ送付
- さろん文庫開設||毎週金曜日午後1~4時(阿倍野区在宅サービセンター・ヒーロー室)
- さろん文庫本、朗読テープ作成(朗読V・G系でんわ)
- 広報活動:アベノ・タウン紙、朝日・産経・毎日・読売各新聞、ボランティア情報誌「コンボ」
- 海外文通:アメリカPat ti Trucky、ドイツBrigitte Ehrenberg、韓国||馬 泰植、ドイツMargaret Bowler、
- 平成12年度大阪市ボランティア活動振興基金助成金交付を受ける
- 「ハサロン・あべのVとは?」冊子作成、うえひら☆ゆきお著・表題||中西利香筆・イラスト||石田美彌子
- サロングッズ制作と販売
- ハサロン・あべのV10周年記念誌「はあとが、はろー!」、絵葉書「花だより」「新・わがまち阿倍野」、一筆箋、阿倍野いろはがるとなど

☆受賞報告

- 10・8・日 「身体障害者福祉法施行50周年、知的障害者福祉法施行40周年」の大阪市記念大会において大阪市長より「感謝状」を贈呈される。
- 11・16・木 「第26回『産経市民の社会福祉賞』」(産経新聞・大阪新聞厚生文化事業団主催、産経新聞社後援)を受賞。



サロン隣組ニュース

■「サロン淀川」5月の出会い

日時: 5月20日(日) 午後1時30分~4時
 場所: 淀川区民センター「やすらぎ」
 大阪市淀川区三国本町2-14-3
 内容: 心に光を求めて——戦争失業者の自分史
 ~生と死を乗り越えて戦中、戦後を生き抜く~
 パネラー: 川村義明 (ゆきとよあき) 氏
 会費: なし
 問い合わせ先: 淀川区社協 (ボランティア・ビューロー)
 ☎ 06-6394-2900
 E-mail: kubota53@mbx.ninet-osaka.or.jp

■「サロン・ひらの」5月の出会い

日時: 5月26日(土) 午後1時30分~4時
 場所: にこにこセンター3階
 大阪市平野区平野2-1-30
 内容: 未定
 会費: 100円
 申し込みと問い合わせ先: 平野区ボランティア・ビューロー
 大西 ☎ 06-6795-2200

■「サロン・にし」5月の出会い

日時: 5月12日(土) 午後1時30分~4時
 場所: 西区ボランティア・ビューロー室
 大阪市西区北堀江4-5-14 6階 (西区役所隣)
 地下鉄=西長堀駅4A号出口からすぐ
 市バス=地下鉄西長堀駅からすぐ
 内容: ボイストレーニング (発声練習) で、
 楽しく、明るく、気分が踊る!
 ~お腹の底から大きな声を出すのは楽しい。どなたでも参加してください。トレーニングの後はティータイムとレクリエーションゲームで楽しい交流会です~
 会費: なし
 問い合わせ先: 宮脇 ☎ 06-6537-0241

■「ウイズ東淀川」5月の出会い

日時: 5月13日(日) 午後1時30分~4時
 場所: 東淀川区民会館4階 (クオア大阪北東ビル4F)
 大阪市東淀川区東淀川1-4-53
 ☎ 06-6379-0700
 内容: みんなで踊ろうジャズダンス Let's go!
 講師: 尾崎亭子氏
 会費: なし
 問い合わせ先: 鈴木昭二
 ☎ 06-6340-3082
 FAX 06-6340-3012

■「サロンみたみ」5月はお休みです

一九九二年九月三日第三種郵便物認可 (毎日発行)

おしらせ

△サロン・あべのV5月の出会い

日時 5月19日(土) 午後1時~4時
 場所 育徳コミュニティセンター2階
 (スロープ・車いすトイレあり)
 [阿倍野区阪南町5-15・28]

内容 Ⅱビデオ鑑賞「老人Z」
 (大友克洋原作・SFアニメ)
 ~老人介護の切り札として開発された完全介護マシーンが教えてくれる介護に必要なもの~

会費 Ⅱなし
 お問い合わせ先 Ⅱ
 TEL 06-6691-11028 (富田)

編集人; サロン・あべの運営委員会・<サロン・あべの>Vol.178 [H.13. 4.21. 発行] 定価¥100.
 代表; 山村貴司 ☎546-0033 大阪市東住吉区南田辺5-1-18 TEL 06-6691-9071
 連絡先; 富田慶子 ☎545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 TEL・FAX 06-6691-1028
 表題; 井上憲一・筆 文中イラスト; 石田美禰子
 郵便振替口座; サロン・あべの 00950-9-26941
 印刷; セルフ社 ☎546-0044 大阪市東住吉区北田辺町4-23-2ミスターDEN2F TEL 06-6719-8212